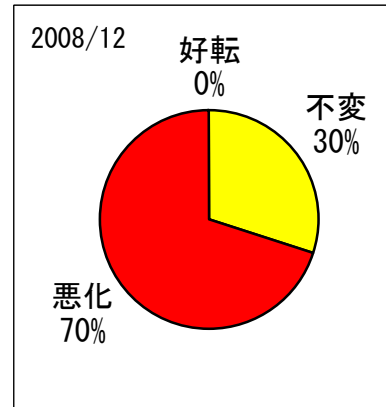
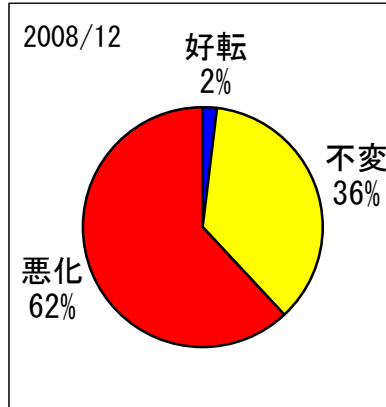
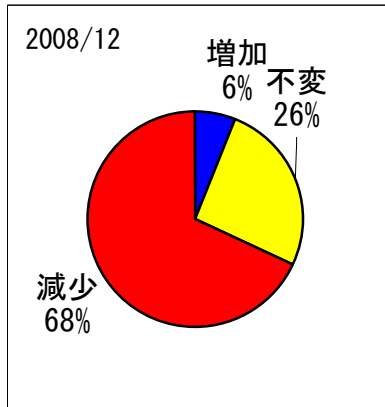
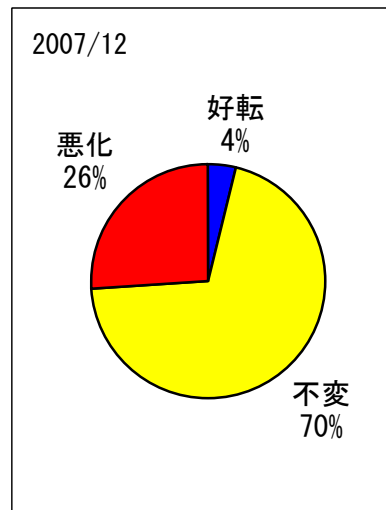
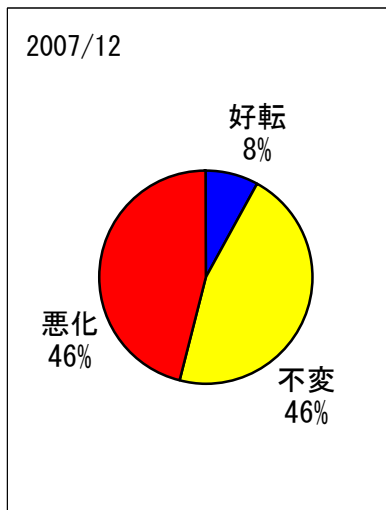
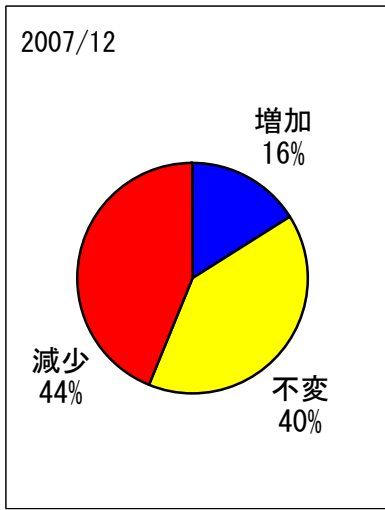


データから見た業界の動き (平成20年12月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	07/12	08/11	08/12	07/12	08/11	08/12	2007/12	2008/11	2008/12
対前年,前月,当月									
売 上 高	-30	-50	-50	-27	-77	-70	-28	-66	-62
収 益 状 況	-45	-60	-60	-33	-73	-60	-38	-68	-60
景 況 感	-55	-65	-70	-40	-77	-70	-40	-72	-70

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の12月の景況は、全業種のDI値で、売上高は－62（前年同月比－34）、収益状況は－60（前年同月比－22）、景況感は－70（前年同月比－30）と依然としてDI値の推移は前月と同じく下げ止まったままで、大きな変化はなく、全く先行きの見えない中小企業の厳しい状況が読みとれる。

業種別では、製造業の売上高のDI値は－50（前年同月比－20）、収益状況は－60（前年同月比－15）、景況感は－70（前年同月比－15）であった。

非製造業のDI値においては、売上高は－70（前年同月比－43）、収益状況は－60（前年同月比－27）、景況感は－70（前年同月比－30）となった。

対前年同月比では、業種全体で景況感が－30ポイント悪化。それぞれの項目でも、製造業、非製造業ともにのDI値は大幅に悪化している。

経営環境がさらに厳しさを増す極めて深刻な状況下で、打つ手のない経済対策に対して悲観的な見方がより一層強まってきている状況が、景況動向に関するコメントからも分かる。

■ トピックス

年の締めくくりとなる12月の調査では、2008年を振り返り、「貴業界へ影響を及ぼした1番の出来事」と「その影響」について各業界の報告を求めたところ、コメントには「原油価格高騰」「リーマンショック」「サブプライム」「食品偽装」と言った共通するキーワードが集中した。

2008年の前半は、原油価格の高騰による資材・原材料費の値上げによって、ほとんどの業界で収益の悪化を招いた。後半は、サブプライムローンに端を発する要因とリーマンショックによる株安、金融破綻などが、世界規模での金融不安と経済不況の要因になり「原油価格高騰」と「アメリカ経済」の影響に振り回される結果となった。

以下、業界からのコメントの一部を紹介する。

●**食料品**／原油高騰に伴う包装資材、原材料が高騰、収益を圧迫。食品偽装で消費者の食に対する不信が増幅、問題の無い物にまでもクレームがあり、対応に苦慮。●**繊維・同製品（織物）**／リーマンショックによる株安と金融破綻→インテリア関係の急激な悪化。中・高級品の売れ行きが悪化。

●**紙・紙加工品**／原油高騰→原燃料資材費が高騰したが販売価格に一部しか転嫁できず収益を圧迫。●**窯業・土石業（砂利）**／民事再生法の適用や関連業界で自己破産する企業が多発、多くの業者に打撃。●**鉄鋼・金属**／金融不況により、9月以降の急激な受注量の減少。円高、株安により仕事量の激減。●**一般機器**／世界不況の影響で仕事量が減少、資金繰りの悪化。●**その他（貴金属）**／夏までは地金材料の高騰が続き、秋からの急落の後、今度は世界的不況、資産が目減り。

●**卸売（衣料品）**／原油価格上昇で収益が低下したところに株安で売り上げ減少。業界全体に閉塞感が漂っている。●**卸売（宝飾）**／雇用不安から消費のマイナスマインドが強烈に起こり、先行きの不安材料が大きいと、来年以降は業者の淘汰が始まると思われる。●**小売（SC）**／SC周辺工場関連も派遣社員、契約社員削減が始まり、観光・レジャーのお客減少、円高によるアジアの外国人のお客減少。

●**小売（石油）**／暫定税率の廃止、復活により、販売量が減少。米国の金融不安による世界的な景気後退により、石油業界SSは廃業を余儀なくされている。●**商店街／核スーパー撤退**→客数減少●**宿泊業**／原油高騰→ランニングコストの上昇。●**美容業**／原油高、経済悪化→美容材料費高騰、美容院収益、入店客数、売上げ減少。●**自動車整備**／原材料高騰及びリース車両の増加による販売価格の低下で一段と収益は圧迫。●**建設業（総合）**／公共事業費の減少→建設業界全体に悪影響を及ぼし結果明るい兆しは見えず。●**建設業（型枠）**／米国発の金融不安による不況→ゼネコンがつぶれ、多くの工事が止まった。

●**建設業（鉄構）**／鋼材価格の急騰による材料調達難→鉄骨受注価格の安定化図れず。金融危機に端を発した景気後退でプロジェクトの計画中止・縮小により鉄骨工事の激減となり工場稼働率が60%~70%まで落ち込み厳しい局面となっている。●**設備工事（管設備）**／原油高騰→材料費の値上がり・工事価格を抑えていることによる収益の悪化。●**運輸（トラック）**／「原油高騰」→運賃転嫁できず収益の悪化

業界の声

【製造業】

- 食料品（水産物加工）／おせち関係は大手スーパー向けが減少。ギフト関係はゆうパックが健闘したものの、百貨店向け、スーパー向けが不振。
- 食料品（洋菓子製造）／急激な円高で台湾向け輸出が半減。ただし国内向けOEM製品は堅調。
- 食料品（ワイン）／甲州ワインの認知度はヌーボーフェア、試飲会などを通じて確実に広がりつつある。一方メーカー間の格差が拡大している。
- 繊維・同製品（織物）／デパートなどの婦人服の売上げの落ち込みが大きく、先月まではある程度売れていたマフラー、スカーフも12月に入ると急激に悪化。今後は今まで以上に受注数量が細くなり、品質に対する要望が厳しくなる。
- 紙・紙加工品／重油価格が対前月大幅下落。主原料のパルプも値下がり。来月も値下がりの状況。3～4月頃緩やかな反騰見込み。1月以降生産販売も減少見込み。（季節的要因と需要減退による）
- 窯業・土石業（砂利）／例年発注される河川護岸工事が本年は発注規模が小さく、12月には骨材を使用するまでには至らず。今後は中部横断自動車道、リニア実験線延長工事により徐々に景況も回復してくると期待。
- 窯業・土石業（生コン）／設備の老朽化、また公共事業の減少などから値上げをしたい。
- 鉄鋼・金属／パートなどの人員削減を開始する予定。
- 一般機器／仕事がないため、従業員の出勤を週休3日とした企業もある。

【非製造業】

- 小売（SC）／12月前半は、全体的に厳しい出足だったが、クリスマス・年末の売上で持ち直した。全体的に客数は大幅に増加しているが、客単価の減少が非常に厳しく見受けられる。
- 小売（石油）／指標原油のドバイ産が1バレル40ドル台に下落したため、3年9ヶ月ぶりに120円（1リットル当たり）となった。21年1月からは若干の値上がりを予想。
- 商店街／核となっていた大型スーパーの閉店にて客足の減少が確実であり、抜本的な対策が急務。
- 宿泊業／年末家で過ごすなどの報道の影響で間際になってのキャンセルもあり。忘年会のシーズンにもかかわらず、行事を見合わせが多く見受けられた。
- 廃棄物処理／世界不況により特に中国市場での需要が激減。加えて円高。景気の回復がない限り排出量は増加しない。
- 建設業（総合）／第4四半期に入るが、この時期手持ち工事のない業者も増えている。それと同時に倒産件数も更に増えそうな気配がある。
- 建設業（型枠）／昨年来の大不況によりマンションを中心とした民間工事の中止が相次ぎ、工事量が激減したため、ほとんどの会社が経営難に陥っている。
- 建設業（鉄構）／建築物に占める鉄骨物件の減少・中止などにより工場稼働率が低下している。
- 運輸（バス）／一段と仕事量が減少。例年仕事量が少ない1月だが例年より厳しくなり、大手をはじめ車両売却などの動きが出ると予測。